平成26年度　森林講座

そこに山があるから？
ー山林保有と管理経営ー

林業経営としての一巡り

山は金にならない、という話をしばしば耳にします。それでも山林を保有する人の数は減っていません。人が山を保有する理由について考えます。

講師　田中亘（林業経営・政策研究領域）

森林所有者の林業経営意向

私達の研究グループが実施した森林所有者を対象としたアンケート結果の分析から、以下の点が明らかになりました。

- **木材を伐採していない理由は、「木材価格が安いため」と「伐採予定の林齢に森林が達していないため」が多い**
- **現在ほとんど行われていない皆伐も長期的には実施される見込みは十分にある**
- **ただし、皆伐の予定がない人工林も一定程度ある**
- **皆伐後の手取額が立木代の50%程度であれば、再造林される可能性が高い**

現時点で皆伐している森林所有者は多くないため、木材価格相場が正確に把握されていない状況も確認されました。

新たな森林投資の動向

山林は昔から投資の対象でした。これまで多くの資本家が他産業で得た利益を山林に投資してきました。しかし、木材価格が下がって、林業があまり儲かる産業ではなくなるにつれて、森林を売却して林業から撤退する動きも見られます。その一方、新たな観点から森林へ投資する動きも一部で見られます。そこでの特徴には、

- **独自の観点から所有と経営の期限が見定められている**
- **木材の生産販売と並んで「環境」を意識して投資している**

という点がありました。